

独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿 3-60-2

TEL 045-851-2621 FAX 045-853-8359



国立病院機構横浜医療センターは、新病院が開院してちょうど10年を迎えました。

当院は、横浜市南西部地域中核病院に指定され、救命救急センター、ICU、CCU、SCU、周産期センターを備えた地域の急性期型高度総合病院として機能しています。

2020年は、今まで経験したことのない新型コロナウイルス感染症との戦いが続き、大変ストレスの多い1年でした。当院もICUに重症患者を受け入れ、外科病棟の一部が新型コロナ専用病棟になりました。外科でも通院患者が発熱した場合はPPEを装着して抗原検査を行ったり、PCR外来を担当したり、術前患者の家族が外国帰りで発熱し患者が濃厚接触者疑いで大騒ぎになったり、色々と大変な場面が多々見られました。幸いにも当院では院内クラスター発生はありませんが、昼食時の対面や会話制限など大変気をつかう毎日が続いています。

診療面は、関戸統括診療部長の御指導の下、10名のスタッフが2チームに分かれて診療を行っています。2020年の主な手術件数は、腹臥位胸腔鏡下食道切除再建1例、乳癌切除16例、胃癌切除34例↓（うち腹腔鏡下手術7例）、大腸癌切除109例↑（うち腹腔鏡下手術99例）、肝切除31例、膵頭十二指腸切除15例、腹腔鏡下胆嚢摘出97例、開腹胆嚢摘出47例↑、虫垂切除48例、単径ヘルニア根治術85例↓でした。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、4月、5月、

9月の手術件数が落ち込み、手術総数は658件と減少しました。

当院は、若手外科医にとって大小の消化器手術から外傷系の緊急手術まで幅広く執刀経験ができ、心臓血管外科（女子医大系）や呼吸器外科（1外）の手術にも入りやすいことから、外科専門医修得にとっても有利な病院です。外科専門医修練医の育成にもあたっており、今春1名が卒業、1名採用になります。研修医の先生たちにも外科手術の楽しさを伝えるべく、開腹操作やラパコレで胆嚢漿膜切開、CUSAで肝切除等の手術手技、学会発表を経験してもらっています。今年も11人の初期研修医が外科を研修しました。今後も外科医になる若手を増やせるように尽力していきたいと思っています。

今年は、歓送迎会などは一切行うことが出来ませんでした。今回の写真は、久しぶりに一瞬だけマスクをはずして撮った外科病棟での1枚です。マスクなしで皆の笑顔を見られる日常が早く戻って欲しいと願っています。

今後とも地域で選ばれる病院になるべく、スタッフ一同協力しあって日々診療を頑張っていきたいと思っています。同門会の先生方には今後とも御指導、御協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

（文責：松田悟郎）



令和2年の横浜市民病院は、なんといっても新病院への移転が無事行われたことにつきます。移転直前の2月ごろより新型コロナウイルスの感染がひろがり、当院は早々にクルーズ船の重傷者の受け入れを行い、重症患者の入院を継続したまま新病院への引っ越しという困難に見舞われましたが、なんとか滞りなく移転できました。

さて令和2年の外科は、消化器外科6人（うち大学ローテート2人）、炎症性腸疾患外科6人（うち大学ローテート1人）、乳腺外科2人（うち大学ローテート1人）のスタッフと4人の後期研修医、2ヶ月毎にローテートする3人の初期研修医で診療を行いました。外科一同、外来、病棟、手術、救急診療と日夜仕事に励んでいます。

さて、外科が消化器外科、乳腺外科、炎症性腸疾患外科の3つに別れてから12年経過しました。2020年の総手術件数は、移転と新型コロナ感染の影響で前年より減少し外科全体で1,163例でした。内訳は消化器外科約753例、炎症性腸疾患外科約327例、乳腺外科約83例でした。

消化器外科では、大腸癌手術症例数は前年よりやや減少し、腹腔鏡下の手術の割合は77%でした。平成29年から導入した腹腔鏡補助下直腸固定術（直腸脱の根治術）は54例行いました。

胃癌手術症例数はやや増加し、肝胆膵領域では膵頭十二指腸切除術を6例行いました。

乳腺外科は、前年より大幅に減少しましたが、横浜市乳がん連携病院の指定を受けることができたことから、今後は症例数の増加が期待されます。

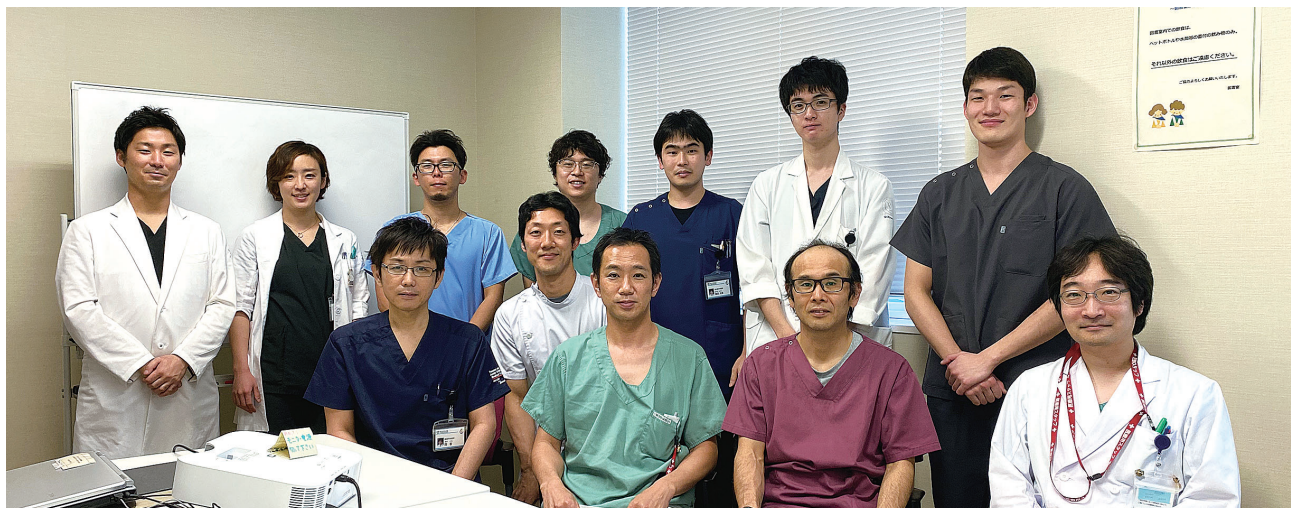
炎症性腸疾患外科は、移転やコロナの影響はなく手術件数は前年より増加し、従来通り関東圏はもとより全国から患者を受け入れています。

緊急手術は173例で前年とほぼ同数でした。急性虫垂炎は昨年の83例から79例とやや減少しました。ただ、新病院では手術室が13室と増えたため、比較的定時時間内に緊急手術が可能になりました。しかし、現在のスタッフの人数から考えると現在の手術件数が限界と思われます。

2020年度から始まった期研修医のプログラム(外科コース)には、2021年度も多数の応募の中から2名がマッチングしました。これにより、研修医3年目以降に外科専門医プログラムを選択する研修医が、一人でも多くなることを期待しています。

今後も地域中核病院として周辺の医療機関と連携を密にし、より一層地域医療に貢献していきたいと思えます。これからも、ご指導ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

（文責：望月康久）



2020年度の人事異動では、南、池田、井上が退任し、この3名に代わり、大田、川島（圭）の2名が着任しました。残りの1名は、当院外科専攻医プログラム3年目の小倉が1年間の関連病院研修から戻ってくることでより補充され、大学ローテーションは1名減員となりました。そこに、山岸、牧野、菅江、浅野、田と外科専攻医1年目の河内を加えた9名で診療しました。例年と同様に、小倉、川島（圭）、河内が呼吸器外科をローテートしました。また、救急外科にも同じくこの3名がチームの一員としてローテートに加わり、緊急手術、外傷治療に携わりました。さらに例年同様、1-2か月毎に卒後1年目、2年目の初期研修医がローテートし、手術・病棟管理を担当しました。

今年度の話題は、何といても新型コロナウイルス感染症への対応です。当初は、ダイヤモンドプリンセス号の乗客や乗員を受け入れましたが、外国籍の患者さんは生活文化や制限の多い感染症入院生活に慣れず、病院スタッフも非常に苦労し精神的にも厳しい様子でした。特に食事に関しては、自国の大使館員が来院し、差し入れや入院生活の説明（説得？）して、なんとか対応していました。親身に診療、看護したことが評価され、後日大使館から感謝状が送られてきたことは、スタッフの励みになりました。その後は、重症症例への対応が可能な「高度医療機関」と、中等症や疑い症例を受け入れる「重点医療機関協力病院」に指定され、救急ICUを中心に様々な患者さんを診療しています。

もう一つの話題は、外科が初期研修医の必須科目になったことです。やはり外科希望ではない研修医が1カ月だ

けローテーションしても、完全にお客さんで終わってしまい、さらに外科希望の研修医も他の必須科目との関連で1カ月しか研修しないので、術者を当てることも出来ず、リクルートに難渋しています。来年度からは、入職前に希望を取り、外科希望の研修医は2カ月研修できるように院内ルールを改めましたので、その効果に期待したいところです。

2020年1月～12月の手術件数は、総数765例で、定時手術611例、緊急・臨時手術154例で、緊急・臨時手術が多い状況が続いていますが、これらは救急外科が主に担当しているので、以前と比較すると外科医のQOLは改善しています。しかし、救急外科だけで全ての急患を担当するのは人員的に不可能なので、例年通り外科も連携を密にとりお互い助け合って診療しています。院内での外科の特徴としては、手術件数もさることながら、扱う癌症例の増加に伴い外来化学療法も激増し、乳腺を含む外科は外来化学療法室の利用が年間2,000件を超え、最も多い診療科となっていることは変化なしです。

診療体制は、上部消化管を牧野が、下部消化管を山岸、田が、肝胆脾を大田が担当し、良性疾患は皆で指導しています。当院の特徴は腹腔鏡手術が多いことで、定時に限らず緊急手術でも積極的に腹腔鏡を行っており、若手外科医の鍛錬の場となっています。学術関連は、学会発表が44演題（パネルディスカッション2演題、ワークショップ7演題）で、例年通り外科学会、消化器外科学会、臨床外科学会、内視鏡外科学会は必ず演題登録しています。論文発表は2題と少なめですが、継続して指導していきます。

毎年開催している地域の小学生と保護者を対象とした「病院お仕事体験ツアー」をはじめ様々な催しは、コロナ感染拡大の影響もあり次年度へ延期となりました。当院は第二種感染症指定医療機関なので、このような事態になると重症例や湘南東部2次医療圏の患者さんを受け入れる体制が優先となります。早期に収束し通常診療体制

制に戻ることを願っています。

これからも、地域医療に貢献し、高水準の医療を提供できるよう努力してまいりますので、支えていただいた多くの方々におかれましては、ご指導、ご鞭撻のほどを何卒よろしく願いいたします。

(文責：山岸 茂)

伊東市民病院

〒414-0055 伊東市岡 196-1

TEL 0557-37-2626 FAX 0557-35-0631

◆ 関連施設勤務者

副病院長・診療部長・外科部長 神谷 紀之(平.4)

2020年の当院外科は、消化器・腫瘍外科からは私1人と京都府立医大出身の城野医師(S59卒)、小倉玲那医師(H22卒)に7月から天池 寿医師(S60卒)が加わり常勤4名体制でした。今年度は外科専門専攻医は不在でしたが次年度は、地域医療振興協会(東京ベイ・浦安市川医療センター)の外科プログラムから通年で2名の専攻医を予定しています。

神奈川県内ほどではありませんが、当院も新型コロナウイルスの影響がありました。静岡県東部地区には2次医療機関そのものが少ないため、昨年夏から重点医療機関として診療を行っています。新型コロナ専用病棟として、外科・脳外科を中心としていた1病棟を閉鎖したために外科は他のフロアへ引越しました。そのため従来無かった組み合わせの混合病棟となり、半年以上経過した今でもバタバタした状態が続いています。

外科手術への影響ですが、NCD登録数は282件で、前年とほぼ同じでした。一時手術は控えましたが制限は緩いものでしたので影響はあまりなかったようです。逆に外科スタッフが増えたことで並列手術が可能になり緊急対応も幅が広がったため、今年度は件数増加を見込んでいます。

内容としては、大腸癌根治術の鏡視下手術が2020年は35/41例85.4%で、目標だった80%を超えることができました。また昨年から加わった天池医師は鏡視下肝切除の経験が豊富ですので当院は施設基準は取れていませんが、指導を仰ぎながら低侵襲手技を取り入れ、さらなる手技の向上を目指したいと思います。



今年は河津町の桜祭りは中止でした。花見にも行けなかったのですが、昨年買ってきた鉢植えの河津桜がベランダで綺麗に咲きました！

コロナ禍、さらに緊急事態宣言で伊東市の街の様子もだいぶ変わりました。例年GWやお盆時期には町が観光客でいっぱいになり道路は渋滞、そして当院の救急外来は旅行者の受診で溢れかえるのが定番でした。しかし昨年は旅行者の減少から町は不景気となり、入ったことのある古くからの飲食店がいくつも閉店しました。病院から見れば救急患者が減って時間外診療が減ることはスタッフの負担軽減とも言えますが、週末に街が静まり返っているのは、観光地としては寂しいものです。Gotoキャンペーン以降回復傾向はありますが、夏にはもとの賑わいが戻るといいな、と思いつつ、救急が忙しいのはなあ…ジレンマです。

本年度もよろしくお願いいたします。

(文責：神谷紀之)

横須賀市立市民病院

〒240-0195 横須賀市長坂 1-3-2

TEL 046-856-3136 FAX 046-858-1776

I. 当院は前回の東京オリンピックの前年、昭和38年(1963年)12月横須賀市立武山病院として開院しました。以来50余年になる、横須賀市・三浦半島西部地区の中核的病院です。西には豊饒の海相模湾、東には半島随一の頂、大楠山を望む風光明媚な場所に位置しています。病棟から仰ぎ見る三浦半島の山並みはなかなかのもので、最上階の和食レストランから望む相模湾越しの富士山も絶景です。横浜横須賀道路の料金改定や平成29年に近道が出来たことで横浜周辺からもぐっと近く、より経済的に通勤可能になってきました。

2021年2月末現在のメンバーは久保章顧問(昭50)以下、副院長・診療部長の亀田久仁郎(昭63)、長嶺弘太郎(平6)、三宅益代(平21)、小暮悠(平21)、田村裕子(平25)、日大出身の杉浦浩朗(平6)ら個性溢れる面々で日夜診療に励んでいます(藤原淑恵(平24)は産休中です)。

II. 2020年度の外科トピックは

① 久保先生の動向について

長年当院に多大な貢献をされてきた久保章先生が2020年7月に管理者職を辞され、顧問に就任されました。平成22年(2010年)4月の「公設民営化」後10年余りが過ぎましたが、強力なリーダーシップのもと着実な経営改善、健全化を達成してきたのは久保先生の力によるところ大でした。また、感染症第二種指定医療機関として2月のダイヤモンドプリンセス号内での多数感染事例に始まるこのコロナ禍、ごく初期からの患者さん受け入れに当たり陣頭指揮をとられました。

② コロナ禍色々ありました(戯文ですので…)

COVID-19診療については各診療科が当番制で診療し、幾代の変遷の後、現在外科チームは発熱者外来、慢性期患者等中心の診療に加勢しているといったところ



2020年度(令和二年度)メンバー(2021年3月撮影)

です。2020年春の緊急事態宣言では、実際ガウン等、医療資材の不足から一時的手術縮小期間もありました。そんな現況下でも色々ありました。女性陣の懐妊、出産、それに伴う一時的人員不足も大学の協力を仰ぎながら何とか年は越せました。また年明けからはTamukoがヘルプで襲来着任し、Masuyoも乳飲み子を抱き抱えながら再上陸、~~否~~早期復職してくれて、再度活況を呈し始めてはいます(Yoshieは育児に奮闘中!?!らしいです)。

III. 高齢化社会の波を受け、超高齢者の重篤な症例も本当に多くなってきました。患者さん、そしてそのご家族の期待に応える困難さを痛感していますが、これら困難な症例にもチーム一丸となって対応しています。年間の手術症例は350例ほどですが、ほとんどの術者は若手ローテーターですので、十分な手術経験、修練が積めます。

医局員の皆さん! 是非我々と一緒にここで働いてみませんか。

開院以来周辺住民の皆さんからの信頼の厚い地域密着型の病院です(来れば本当に実感します)。必ず皆さんのやる気をおこさせてくれる病院です。

そして厳しく、激しい仕事の後にはグルメを堪能してください(テイクアウトもうまく使いつつ…)。もちろんデートスポットも海沿いを中心としてたくさんあります(感染予防策を十分に行いつつ…)。

最後になりましたが、同門の先生方におかれましては新年度も引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(文責:長嶺弘太郎)

茅ヶ崎市立病院

〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村 5-15-1
TEL 0467-52-1111 FAX 0467-54-0770

1943年12月、茅ヶ崎市立病院の前身である「町立茅ヶ崎病院」は発足しました。松並木生い茂る旧東海道国道沿いにあった病院は素朴なぬくもりを感じる二階建ての古い木造建築でした。それより70年以上を経た2016年に乳腺外科が開設。現在茅ヶ崎市内唯一の400床以上の病院であり湘南東部医療圏の基幹病院として機能しています。本年は、COVID-19流行に伴い2020年4月から陽性患者受け入れを開始、5月には神奈川モデルにおける高度・重点医療機関協力病院に認定され11月からの第3波により当院でも相当数の患者受け入れを行ってきました。

2020年4月以前より当科も帰国者・接触者・発熱外来を担当、入院制限の影響もあり約1割の手術減少がありました。それでも須藤友奈先生との2人体制で月間平均55件の化学療法数を通年で維持、収益面でも安定した診療を行っています。化学療法患者のケアは概して時間と労力を要する事が多いため本年もスタッフ間情報共有のための多職種カンファレンスや緩和ケア研修協力を行い全人的患者ケアの充実に重点を置いてきました。

最近では茅ヶ崎においても40才未満AYA世代の化学療法適応患者の増加を実感しています。妊孕性温存、乳房再建、遺伝性乳癌、リスク低減予防的乳房切除、腫瘍精神、子育て、就労支援、家族のサポートなど考えなくて



はならないことが多い患者さん達です。難渋すること多い分野ではありますが、そこに寄り添える医療の充実を目指すことが、自ずと、全ての世代の患者への十分なケア構築につながりますし、また医員やスタッフの教育面においても“人を治す”全人的医療理解につながると考えております。“一例を大切に”をモットーに、ローテーターも安全にじっくりと診療ができるようなサポートを心がけて行く所存です。これからも茅ヶ崎市立病院乳腺外科への御指導御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

(文責：嶋田和博)

横浜労災病院

〒222-0036 横浜市港北区小机町 3211
TEL 045-474-8111 FAX 045-474-8323

◆ 関連施設勤務者

乳腺外科部長 千島 隆司 (H.3)
乳腺外科医長 原田 郁 (H.20)
乳腺外科医師 柴田侑華子 (H.27)

横浜労災病院は、横浜市北東部医療圏の地域中核病院として1991年に開設されました。現在は地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、神奈川DMAT指定病院、横浜市乳がん連携病院として、救急・災害医療から高度がん診療までの広い分野で勤労者医療、地域医療に貢献しています。

2020年度の横浜労災病院は、医局から消化器・一般外科への医師派遣が終了となったため、乳腺疾患を中心に乳腺外科3名での診療体制となっています。他の関連施設も同じ状況だと思いますが、この1年間はCOVID-19が



我々の診療活動に大きな影響を与えてきました。当院は、感染拡大早期から帰国者・接触者外来を設置して、新型コロナウイルス診療の前線基地となってきました。当然、乳腺外科医も“コロナ外来”に借りだされ、Full PPE (Personal Protective Equipment) で身を包みながら感染症診療の最前線を経験してきました。

☆ 乳腺外科の近況報告

当院では、2017年4月から「乳がん治療に伴う包括的な患者支援」を行うための包括的乳腺先進医療センターが設置されています。本センターは、横浜市が推し進める「総合的ながん対策推進事業」の一つに位置づけられて、横浜市からの支援のもと「乳がんチーム医療のモデル施設」として活動しています。包括的乳腺先進医療センターにおける2020年の手術件数は、悪性腫瘍の根治手術が232件（局所再発を含む）、良性腫瘍やリンパ節生検などが35件、一次乳房再建術が10件、画像ガイド下組織生検が52件でした。新型コロナウイルスによる診療制限もあり、手術件数は例年よりも1割以上減少しています。特に、一次乳房再建に対する新型コロナウイルスの影響は大きく、入院期間が長くなる一次乳房再建を敬遠して、感染収束後を見据えた二次乳房再建を希望する患者が多くなっています。薬物治療においては、新薬治験にも積

極的に参加しており、2020年度はER陽性HER2陰性進行再発乳癌に対する経口SERD (Selective Estrogen Receptor down regulator) の第Ⅲ相国際共同試験への登録を開始しました。現在は海外施設に先を越されているものの、2021年1月までは当院が登録症例数で世界第1位となっていました。今後も、1. 乳房再建などを中心とした患者QOLを重視した診療の実践、2. 国内外の臨床試験や新薬治験などの臨床研究の推進、3. 就労問題・遺伝相談・がんの生殖医療・アピアランス相談・メンタルヘルスなど患者支援の充実、4. 乳がん診療に携わる全国の医療スタッフを対象としたチーム医療教育の推進、5. 病診連携の充実と高齢・併存疾患を持つ患者に対する地域包括ケアの構築を5本柱として、神奈川の乳がん診療に貢献していきたいと思っています。

横浜労災病院では乳腺外科、消化器・一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、救急医療部が独立した診療科となっています。各スペシャリストの指導下で、外科専門医を取得するための症例を効率的に経験することが可能です。外科専門医をめざす過程で「乳腺診療も勉強してみたい」という若手医師にとって、横浜労災病院は希望に叶う関連施設だと思っています。今後とも、ご支援ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

(文責：千島 隆司)

横須賀共済病院

〒238-8558 横須賀市米ヶ浜通 1-16

TEL 046-822-2710 FAX 046-825-2103



横須賀共済病院は、古くは1906年に横須賀海軍工廠職工共済会医院として開設。戦後は海軍共済組合から財団法人共済協会、非現業共済組合連合会へ継承され、その後、国家公務員共済組合連合会（KKR）所属となった歴史のある病院です。

横須賀市、三浦半島における中核病院として、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院、神奈川県災害医療

拠点病院、神奈川DMAT指定病院として急性期疾患からがん診療までスタッフ一同診療に励んでおります。

内閣府の戦略的イノベーションプログラム（SIP）「AI（人工知能）ホスピタルによる高度診断・治療システム」に採択され、さらに2019年のNewsweekに当院がWorld's Best Hospitalの一つに選ばれるなど、国内外にまで認められるようになりました。

2019年4月から、医局からの派遣は1名減り、長堀薫院長のもと、舩井秀宣部長、野尻和典副部長、医長として吉田謙一、小野秀高、諏訪宏和、南裕太、鈴木千穂、医員として酒井淳の9名と、山梨大学から茂垣雅俊部長、救急科から1名とシニアレジデント6名の計15名が副部長以下の人間が2-3人ずつの5チームに分かれて診療にあたっております。

2014年4月に就任した長堀薫院長は「若手外科医が楽しんで仕事する。救急は全応需する。」ことを強調されており、スタッフは以前よりもさらに多くの手術を経験するようになり、2019年の手術件数は年間1,500件を超えるようになりました。一方で、当直後のスタッフのoff dutyが義務化や有給休暇の取得を推進など、忙しいながらも、しっかり休むことが出来る様に努力しております。

病棟は、5チームに分かれて診療にあたっており、チーム内の受け持ち患者は臓器別に分かれていません。また、当院の研修医はやる気のある先生が多く、各チームに配属されて一緒に診療にあたっています。

本年は、COVID-19の影響で歓送迎会が行われずに新年度が始まりました。三浦半島の基幹病院ということもあり、当初はCOVID-19患者の入院は、横須賀市民病院をはじめとする近隣の病院で受けて頂いておりましたが、患者数が増加するにつれ、当院でも、専門病棟を作り、ECU、ICUで専門病室を作って受け入れるようになりました。それでも、ベット数が足らず、ECUに個室の増設工事を行いました。また、横須賀市医師会と協力して、医師会館にいち早く造設されたドライブスルーPCRセンターのお手伝いや、さらに、病院駐車場に第2PCRセンターを増設して、長堀院長が提唱した「All Yokosuka」で、診療に当たっております。

近年、術式は腹腔鏡手術が主体となってきており、ヘルニア、虫垂炎、胆嚢結石症などの良性疾患から、胃癌、

大腸癌、肝臓癌、膵体尾癌などの悪性疾患、消化管穿孔、Stoma造設など緊急手術まで、多くの手術が腹腔鏡下で行われております。この流れは、外科だけでなく、泌尿器科、婦人科、呼吸器外科、耳鼻科、脳神経外科、整形外科など他科にまで広がっています。2018年から直腸癌に導入したda Vinciを用いたロボット手術も週に1-2件のペースで行われるようになり、婦人科、呼吸器外科も使うようになったため、フル稼働の状態です。

一方で、本年の特徴としては、早期癌で紹介される患者様が減り、進行癌となってから紹介、併診される患者様が多い傾向にありました。これは、検診等を受ける人数が減っているからではないかと考えております。

術後のフォローアップは従来通り、横須賀医師会、近隣病院と連携して地域連携パスを適応しており、胃癌、大腸癌、乳癌の早期癌患者は、ほぼ全症例、後補助化学療法が必要な患者様も、地域連携パスを導入して紹介していただいた先生方に見て頂く機会も増えてきております。

例年、学術関連では、地域診療所の先生方、病理、消化器内科、外科合同の消化器病カンファレンスを月に1回行っており、さらにそれを発展させた形で横須賀消化器病セミナーを年に2回行っており、地域の先生方と直接顔を合わせる良い機会となっておりましたが、今回は、中止ないしはWeb開催となってしまいました。

COVID-19が終息するまでは、感染が拡大しないように外科としてもお手伝いをするとともに、今後もさらなる地域医療支援、がん診療連携拠点病院として、地域医療に貢献すべく、質の高い水準の医療を提供できるように、若手外科医の教育を含めて精進する所存です。今後とも、益々のご指導、ご鞭撻のほど、何卒宜しく願い申し上げます。

(文責：小野秀高)





横浜市立みなと赤十字病院は、横浜市民のための市立病院であり、日本赤十字社が指定管理を行う赤十字病院でもあります。

2020年4月から、外科では、杉田光隆先生、大田貢由先生、佐藤圭、森康一先生、堀内真樹先生、窪田硫富人先生とシニアレジデント4名の計10名で診療にあたっております。また、乳腺外科では、清水大輔先生、門倉俊明先生、須藤友奈先生の3名が、緩和ケア内科では小尾芳郎先生が診療を行っております。2020年6月からは、須藤友奈先生が茅ヶ崎市立病院へ異動するにあわせ、山田淳貴先生が附属病院より赴任されました。須藤先生の異動後は、医局ローテーターが交代で乳腺外科での診療にあたり研鑽を積んでいます。

当院の最大の特徴として、救急車の受け入れ台数が非常に多いことがあげられます。それに伴い緊急手術も多く、上・下部消化管穿孔、急性虫垂炎、急性胆嚢炎、絞扼性腸閉塞、ヘルニア嵌頓、腸管虚血症など、外科医が習得すべき緊急手術を数多くこなっております。日中に定時手術が行われている場合にも、救急外科部長である馬場裕之先生のご指導の元、迅速に手術対応をする体制となっております。

外科では、肝胆膵・上部グループと下部グループの2チームにわかれ日々の診療にあたっています。肝胆膵領域では、杉田部長のご指導の元、膵頭十二指腸切除や肝切除の高難度肝胆膵外科手術を継続的に行っております。また、症例に応じて腹腔鏡下肝切除も積極的に行っております。大腸・肛門領域では、大田大腸外科部長のご指

導の元、多くの症例で鏡視下手術が行われています。大腸外科を志す若手医師が多くの症例を経験することができ環境が整ってきています。ロボット手術に関しても、週に1件のペースで継続的に行われております。本年は、結腸癌の再建に体腔内吻合を導入しました。また、下部消化管穿孔や絞扼性腸閉塞の緊急手術においても症例に応じて鏡視下手術を行っており、大腸領域のほとんどの症例が鏡視下手術に移行しつつあります。上部領域では、佐藤が赴任し鏡視下手術の適応拡大をすすめています。横浜市立大学附属病院より小坂隆司先生に手術指導をいただきながら、食道癌に対しても鏡視下手術を開始することができました。今後、食道・胃外科を志す若手医局員の内視鏡外科手術修練施設となれるように環境を整えていきたいと存じます。

本年は、COVID-19により非常に厳しい環境下での1年でした。良性疾患の定時手術症例数は大きく減少し、看護体制を維持するため病棟の再編などもありました。COVID-19の影響はまだしばらくの間続きそうです。その中でも、変わらず多数の救急手術を行い、少しずつ定時手術の症例数も元に戻りつつあります。

赤十字病院としての側面と同時にがん診療連携拠点病院としての役割を果たすべく、質の高い医療を提供できるようにこれからも精進してまいります。これからもご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

(文責：佐藤 圭)



カンファレンス風景…ソーシャルディスタンスを保ちながら行うようになりました。

◆ 関連施設勤務者

主任部長 福島 忠男 (S.62)

部 長 長谷川誠司 (H.2)

上田 倫夫 (H.6)

外科医員 和田 朋子 (H.20)

荒木謙太郎 (H.22)

村上 剛之 (H.25)

済生会横浜市南部病院は横浜市と済生会の共同で建設され1983年に開院した、27診療科500床の地域中核病院です。急性期医療を担うとともに、「地域医療支援病院」として地域医療機関との病診連携も推進し、2013年4月には神奈川県がん診療連携指定病院の指定を受け、がん診療支援センター（現センター長：福島）を設置しました。2020年はCOVID-19蔓延という特殊な環境下で、当院でもクラスターの発生等もあり、診療、研修に大きな影響がありました。例年、院内での各種コンサートや市民公開講座、中学生を対象としたブラックジャックセミナー等、地域の方々との交流を継続していましたが、これらは全て中止となってしまいました。一方で、地域連携研修会はオンラインで再開するなどニューノーマルへの対応も始めました。

外科スタッフは第二外科からは福島忠男副院長のもと、長谷川誠司、上田倫夫、和田朋子、荒木謙太郎、村上剛之の6名、第一外科からは虫明寛行、稲荷均、高橋航、渡辺卓央、瀬上顕貴、古賀大靖、原田龍之助、田中玲奈8名、計14名で、両外科スタッフが一体となって診療

に臨んでいます。

COVID-19の感染予防対策のため、ソーシャルディスタンスを保ちながら短時間でのカンファレンスと変貌がありましたが、2020年の外科手術は1,069件で例年の1,200件/年程度からは若干の減少に留まることができました。大腸癌切除症例は169例（関連手術242例）には変化がなく、食道癌3例、胃癌44例と上部症例が減少したものの、肝胆膵系癌は64例、乳癌も95例と前年とほぼ変わらない状況です。不急の手術を控えたためヘルニア関連手術は202例で若干減少しましたが、緊急手術は例年と変わらず、虫垂炎は102例と増加、イレウスも42例でその他の緊急手術も多く、スタッフの奮闘により日々の診療に励んでいます。

外来化学療法は病院全体では延べ5,170例と年々増加しており、その中でも外科は2,200例と4割を超え単科としては最も施行しています。一方で、時間外診療の増加、患者様や医療スタッフへの負担が課題となり、外科が中心となって業務改善に尽力しています。

2027年以降の新病院の開設に向け周到な計画・準備を進めていますが、今後も地域医療支援病院として、また、がん診療連携指定病院として医療情報共有と高度医療の提供、がん診療体制の充実及び地域との連携活動を推進し、患者様の信頼に応えられるような地域トップクラスの医療を目指していききたいと思います。これからもご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

（文責：長谷川誠司）

済生会若草病院

〒236-8653 横浜市金沢区平潟町 12-1
TEL 045-781-8811 FAX 045-784-5443

済生会若草病院の前身は西区岡野町にあった恩賜財団済生会神奈川県病院（大正2年9月設立）で、昭和20年の横浜大空襲により焼失後、昭和21年4月15日に金沢区平潟町の旧海軍釜利谷工員宿舎を仮病院として診療を再開し、これが現在の済生会若草病院に至っているという歴史のある病院です。

病院規模は許可病床数が177床で、うち急性期一般病床が43床、地域包括ケア病床が88床、回復期リハビリテーション病床が46床です。訪問診療や訪問看護部門も有しており、近隣の患者様の訪問診療も行なっております。

2020年4月から外科はOBの山本俊郎先生と有坂の2人で診療にあたっており、中畠雅之先生に腹腔鏡下手術を御指導頂きました。乳腺外来は山田顕光先生、足立祥子先生に行なっていただき、大学の乳腺グループの先生方にも非常勤で勤務して頂きました。また、大学の先生方

には当直にもご協力頂いております。

2020年度は45件の手術を行いました。内訳は鼠径ヘルニア30件（うち腹腔鏡下21件、直視下9件）、結腸癌4件、腹壁癒着ヘルニア2件、イレウス2件などです。

また当院の特徴としてKM-CARTの設備を有しており、難治性腹水の患者様9件に対してKM-CARTを行いました。さらに緩和治療にも力を入れております。主に大学や横浜南共済病院からご紹介頂いた患者様の緩和治療を行い、在宅での看取りも積極的に行なっております。

力不足で大学や関連施設での加療をお願いすることも多く、医局の先生方には大変感謝しております。今年度で外科手術は終了することになりました。御指導・御協力頂きました先生方、患者様をご紹介頂きました先生方に御礼申し上げます。

（文責：有坂早香）

地域医療推進機構（JCHO） 横浜保土ヶ谷中央病院

〒240-8585 横浜市保土ヶ谷区釜台町 43-1
TEL 045-331-1251 FAX 045-331-0864

JCHO横浜保土ヶ谷中央病院となり7年目となりました。病院規模は変わらず許可病床数260床（稼動病床数246）で患者さんは主に近隣の保土ヶ谷区、旭区、神奈川区の方が多く、地域に密着した医療・健診・福祉の総合施設として機能しています。H31年度に御就任された池院長のもと、昨年から続くコロナ禍も何とか乗り切って参りました。診療体制は上向部長のもと、齋藤健人（H7年、血管外科部長）、谷口浩一、泉澤祐介に加え、みなと赤十字病院より神田先生、河原先生のお二人の外科専門研修医にも来ていただき実りある研修が送っていただけたと思っております。乳腺外来は非常勤として足立祥子先生に来ていただき、外来のみならず手術も施行していただいております。外科病床は36床、対象疾患は例年同様で消化器癌が中心ですが呼吸器疾患（気胸、肺転移）、血管外科（AAA、ASO、シャント、下肢Varixなど）の治療

も行っております。昨年の手術総数は400件前後でした。縮小手術としての腹腔鏡手術を積極的に行う一方、高度進行癌に対しても術前化学療法や化学療法後のadjuvant surgery、conversion surgeryなども積極的に行っております。相変わらずかなりの高齢者、かなりの進行癌が多く術後管理に難渋することもあります。退院支援の担当各所ともOne teamとなっており、元気に帰っていただくことにもやりがいを感じております。他科の先生方やメディカルの方々と連携が良いという、中規模病院ならではの強みを最大限生かして診療に当たっております。来年はまた医局の先生方のお力をお借りし、周辺地域の医療機関との連携を深め、一層地域医療に貢献していきたいと考えております。益々のご指導、ご依頼をお願い申し上げます。

（文責：谷口浩一）

横浜掖済会病院

〒231-0036 横浜市中区山田町 1-2

TEL 045-261-8191 FAX 045-261-8149

令和2年4月から佐藤芳樹（副院長）、森岡大介（部長）、山口和哉（平成22年卒）の常勤3人で診療を行っています。当院のような病院の常として手術症例の確保に四苦八苦しております。

常勤医の専門は佐藤→消化管・肛門、森岡→肝胆膵、山口→下部消化管で、特に今年度は腹腔鏡下大腸手術がほぼ一通りできる山口先生が来てくれたおかげで、腹腔鏡下大腸手術がconstantに行えたのでなかなかよい年ではなかったかと思います。関連病院の中でもひととき小さな病院で、実質一人のrotatorの人員が誰かによってできることが変わってしまうため、毎年その年の営業戦略を考えなければいけないので毎年頭を悩ませております。来年度はまた違った営業戦略を考えなければいけないと思います。

来年度からは、胃癌・大腸癌症例でガイドラインを遵守する範囲での腹腔鏡下手術を第一選択とするために誰をどこから呼んでくるかまた悩む必要が生じることになると思います。

昨年度は大きな飛躍を遂げた当院当科の最大のセールスポイントであるヘルニアセンターですが、コロナの影響か今年度の症例は100例を下回ることになりました。ただ、ロボット前立腺全摘後の鼠径ヘルニアの完全鏡視下手術、側方郭清を伴う直腸癌術後鼠径ヘルニアに対する完全鏡視下手術など、定型的ではないために他施設ではあまりやっていない完全鏡視下手術を四苦八苦しながらもやり遂げたのはここ数年で腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術

の経験値が目に見えて上がったためではないかと思います。症例が前年より30例減った1年ではありましたが、当院のヘルニアセンターの特徴は出せたのではないかと思います。

また今年度は当院のような零細病院から、英文を5本publishし、うち3本が原著でありました。特に前年度に在籍してくれた泉澤先生が執筆した“Defining the term “elderly” in the field of surgery : A retrospective study regarding the changes in the immunoinflammatory indices during the immediate perioperative period of the elective uncomplicated laparoscopic cholecystectomy” (Surg Laparosc Endosc Percutan Tech 2020;30:435-440. Doi: 10.1097/SLE.0000000000000803.)は当院のような零細病院においてもそれなりに質の高い仕事ができるということを示せたのではないかと思います。

当院のような零細急性期病院は消えゆくしかないのかのような制度改革がなされている昨今で、実際に患者さんの数も減っておりなかなか苦しい状況ではあります。しかしながら、大病院であるが故の小回りの利かなさで近隣的大病院で診されていない患者さんのbackupを行いながら近隣の開業医の先生方が気軽に紹介できるという当院ならではのmeritを生かし、2024年の新病院への移転へ向けて今後もなお一層努力を続け患者さんだけでなく医局員のみなさんにも魅力的な病院にしていきたいと思っております。

（文責：森岡大介）

NTT東日本関東病院

〒141-8625 東京都品川区東五反田 5-9-22

TEL 03-3448-6557 FAX 03-3448-6558

NTT東日本関東病院の近況報告です。横浜市大からは樺山将士（H14卒）、布施匡啓先生（H27卒）が勤務しております。現在は医局からは2名の体制となっております。古嶋薫先生（S54卒）が週に1度、肛門疾患の手術指導をしていただいております。2021年4月からは布施先生と交代で池田孝秀先生（H27卒）が勤務予定です。また、外科部長が2020年1月から交代し、新外科部長のもと精力的に診療にあたっております。2020年の予定手術は約1,100件で緊急手術は92件でした。新型コロナウイルスの影響で平常時より200件ほど手術件数は減少しております。

NTTの外科は上部、下部（2チーム）、肝胆膵、ヘルニア一般の5チームで編成されており、そのうち樺山は下部チームリーダーを任されております。布施先生は各チームを3か月毎に上部、下部、肝胆膵、ヘルニアと全領域を満遍なくローテートし、消化器外科専門医に必要な症例を経験しております。

大腸癌手術は原発切除が約200例/年を維持しておりますが、今年は、コロナ禍の影響もあり約170件でした。しかし、直腸癌に限れば約60例前後を維持できております。大腸癌手術数に関しては都内での症例数の比較的多

い施設となっております。消化器内科で内視鏡治療に力をいれているため、院内からの紹介症例数が多いという幸運もありますが、きっちりとした外科治療ができているのも選ばれている理由だと思っております。手術は腹腔鏡手術を中心に行っておりますが、一定数開腹手術も経験できるようにもしております。また、2018年10月からは直腸癌に対してロボット支援下手術を導入いたしました。2020年1月からは術者資格が緩和されたのに伴い、助手経験数も重要になってくると思います。若い先生には病院負担で助手のcertificateを取っていただいて、手術に参加してもらいます。

他のチームでも、縦郭鏡下食道切除や腹腔鏡下肝切除の加えて、癒痕ヘルニア、鼠経ヘルニア、虫垂炎症例も積極的に腹腔鏡手術を導入しております。

都内で、横浜市大出身の医師がほとんどいない病院ではありますが、横浜とは異なった治療や手術手技が学べますし、下部消化管の腹腔鏡手術や消化器外科専門医に必要な症例が経験できると考えております。このご時勢の中、五反田の遊楽街に繰り出すことはまだまだできませんが、魅力ある職場だと思います。

(文責：樺山将士)

長津田厚生総合病院

〒226-0027 横浜市緑区長津田 4-23-1

TEL 045-981-1201 FAX 045-983-3647

昭和22年、日ノ出町に診療所として開設され、昭和24年に病院に転換した日ノ出町厚生病院が当院の前身です。その後、横浜市北部の開発に伴い、昭和30年に長津田厚生病院が開設され、昭和43年には拠点を日の出町から長津田に移し、現在の長津田厚生総合病院としての診療が始まりました。

病院規模は許可病床数が190床で、うち急性期一般病床が170床、療養型病床が20床です。現在は急性期一般病床の一部を感染症病棟として使用しております。また、健診センターや人工透析センターも併設されており、地域にとけ込んだ病院として機能しています。院内では、消化器内科や循環器内科をはじめとした内科系診療科、整形外科、眼科、放射線科など他科の医師との連携も緊密に行いやすく、良好な関係の中で診療に当たらせていただいております。

外科は、これまでの4年間、森と平谷の2人体制で日々の診療をこなしてきました。胆嚢結石症や急性胆嚢炎、急性虫垂炎、鼠径ヘルニア、肛門周囲膿瘍、痔核などの良性疾患が対象の主になりますが、胃癌や大腸癌の患者様にも積極的に腹腔鏡下手術を行っています。しかし、我々2名のみでは力不足のことも多く、昨年も大学や関連施設に医師の派遣を依頼させていただきました。協力していただいた先生方、所属施設の先生方には大変感謝しております。

コロナ禍の影響もありましたが、最終的に2020年は昨年と同等の手術件数を維持し284件の手術を施行しました。内訳は鼠径部ヘルニア94例、虫垂切除術19例、胆嚢摘出術27例、結腸・直腸癌手術19例などでした。高齢で複数の合併症をもった患者様が多い中、安全を第一に考え治療にあたらせていただいております。

病院の全面改築については数年来構想が練られてきております。新病院が完成すれば患者数、手術件数も増加することが期待され、当院の医療の質の向上とさらなる発展につながるものと願っております。今後、益々のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

(文責：森隆太郎)



一般財団法人

育生会横浜病院

〒240-0025 横浜市保土ヶ谷区狩場町 200-7

TEL 045-712-9921 FAX 045-712-9926

◆ 関連施設勤務者

院長 長堀 優 (S.58)

外科医長 峯岸裕蔵 (H.21)

名誉院長 塩谷陽介 (S.36)

老健、特養を併設している当院は、このような急性期大病院の機能を補てんすべく、急性期医療より、高齢者医療に力を入れているのが特色です。急性期病院と密接に連携し、治療後すぐには自宅に戻れない患者さんを当院で引き受けて治療を続けています。

6年前に赴任してすぐに地域包括ケア病棟を開設、先述の医療機関にお知らせしたところ、目論み通り急性期後の患者転院のお問い合わせを多数いただくこととなり、入退院数が一気に倍増しました。

200床以下の当院は、訪問診療を担ういわゆる「在宅療養支援診療所」の医師との連携を結ぶことができます。当院と連携した医師は、入院ベッドを確保しているもの

と認定され、医学総合管理科に則り、患者宅ないし施設を訪問した際に加算を得ることができます。また、連携医師からは、訪問している患者さんの緊急時（看取り、熱中症や肺炎など）や、レスパイト入院（介護者の休息のための一時預かり）、リハビリ入院などを当院に依頼されることになります。連携診療所と当院がこのように、お互い密に協力し合うことが、地域医療への貢献につながります。保土ヶ谷区では、地域包括ケア病棟と訪問診療を手掛けるクリニックの間で、まさにウィンウィンの関係を築くことができています。外来診療においても近隣病院からのご支援を戴きながら、糖尿病、皮膚科、整形外科、緩和ケア、小児科、婦人科などの専門外来を開設しています。

この先も、医局のご支援を仰ぎながら、地域医療充実のため頑張りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

（文責：長堀 優）

港南台病院

〒234-8506 横浜市港南区港南台 2-7-41

TEL 045-831-8181 FAX 045-831-8281

2013年4月より大塚裕一（H8年卒）が赴任しており、今年で8年目を迎えました。2018年4月より山口直孝（H13年卒）との勤務が続いてきました。さらに2021年1月からは元第二外科医局員で一度退局し、民間の訪問診療クリニックに勤務していた朴峻（H23年卒）が当院に就職し、勤務を始めています。

今までも近隣病院では施行できないような、局所麻酔下での開腹胃瘻造設や、開腹胃瘻閉鎖術などを行ってきましたが、手術症例のバリエーションを広げるべく、遅ればせながら局所膨潤麻酔による単径ヘルニア手術を開始しました。単径ヘルニアの診断を受けながら他院に紹介しても、認知症などにより日帰りの入院加療でさえ不可能であると判断される症例を多く経験しており、そのような患者さんに少しでも貢献できればと考えております。さらに経験豊富な当院院長をはじめとする呼吸器内科医により、慢性膿胸に対する局所麻酔下での胸腔鏡下膿胸腔搔爬術も始めています。

昨年もご案内した港南区日野南に建設中の新病院である「よこはま港南台地域包括ケア病院」は2021年4月の

オープンに向け準備を続けてきましたが、そのような中で発生した新型コロナ禍の大きな波に巻き込まれてしまいました。2021年1月上旬、法人内の介護老健で職員と入所者さのクラスターが発生し、最小限の隔離で何とか理想的に封じ込めることができて、ほっと一息ついたのもつかの間、その翌週には他院から当院にPCR陰性として入院をした症例の陽転化を端緒とした院内クラスターが発生し、これを執筆している今も厳重な隔離、経過観察を行ってきており、クラスター解除宣言に至りました。

私自身個人的には、アメリカ海軍横須賀病院での軍事組織としての「準備と即応の実務」、NTT関東病院での国際病院評価である「JCI認証」にかかわる医療安全管理に直接携わった経験があります。昨年からの新型コロナ禍に対してはそのような経験を踏まえかなりの時間と労力を割き、自分の中では重いものから軽いものまでおよそ想定しうるあらゆるケースに対応するシミュレーションや、スタッフへのブリーフィングを行ったつもりでしたが、実際の発生は想像をはるかに超えたスピードと規模で襲ってきました。

陽性者4人程度までの小規模なクラスターを想定した当初のゾーニングプランはあっという間の陽性者増加に伴い病床配置を組み直しました。さらに行政との折衝によりさらに多くの新型コロナ専用病床を運用できるように陰圧室の確保など改築、改変を行っていく予定です。

一方で、新病院である「よこはま港南台地域包括ケア病院」は、新型コロナ感染症の否定的な症例を担当し、二つの病院の間で新型コロナ感染症を基軸とする有機的な業務分担を図っていくことになります。

いまだ、終息の見えぬ中にありながら、我々にとって幸運だったと思えるのは、大きく2点あります。一つ目は迅速検査という点で、NEAR法による核酸同定検査法であるIDNOW®が年末に納入され運用を開始していたことです。13分でPCRと同等の結果が得られるとされ、当初導入にはコストも考えやや躊躇したこともありましたが、我々のような小規模の病院で何より大切なことは、迅速性とともな簡便性であり、看護師、検査技師、非常勤医師など、いつでも、だれでも安全に信頼性のある検査が施行できることが求められています。クラスター発生時の初動としての迅速なゾーニング、コホート設定には不可欠となりました。二つ目は院内スタッフと横浜市

南部病院のサポートに恵まれたことであると思います。私自身ICD制度協議会ICDを有しますが、私自身の資格は外科感染症学会経由のものであり、外科感染症サーベイランスの手法は新型コロナ禍のような飛沫感染を主体とする感染症に対応できるようなものではありません。当院には院長を含め、呼吸器内科、感染症内科に精通している医師がいて、理解、使命感のある看護師、技師、療法士、事務スタッフなどに恵まれ、緊急事態に対する行動の即時実行の速さは目を見張るものがありました。今後のICDの養成に関していえば、当院のような中小規模の病院にも、今回のレベル程度のクラスターに対しても行政や専門病院からの直接的な応援なしで初動対応できる能力を持つ人材が常駐している体制の構築が急務であると思います。また自院で対応しきれないと判断したときの、「のぼり搬送」先としての横浜市南部病院の存在、そして支援は本当に助かりました。心より御礼申し上げます。

これからも今までと変わらず「困ったときには港南台病院にちょっと相談してみよう」という気軽な感じでご相談下さい。今後ともよろしくお願い致します。

(文責：大塚裕一)

松島病院大腸肛門病センター

〒220-0041 横浜市西区戸部本町 19-11
TEL 045-321-7311 FAX 045-321-7330

どの施設にも言えることとは思いますが、2020年度はCOVID-19にふりまわされた1年でした。急速に拡大する感染状況に、患者の方々に迷惑をかけないためにどうすればよいのかを手探りで模索する日々でした。

当院は肛門科専門施設です。良性疾患ばかりを扱うこと、また便を介して感染を起こす可能性が示唆されていることをふまえ、COVID-19を病棟に入れられないための最大限の努力をしなくてはならないと考えました。

まずは医局を2分割、つまり外来チームと病棟チームにわけ、院内の導線がほぼ重ならないようにしました。この間の当直は全て病棟チームで行い、また外来のマンパワー不足は病棟チームが電話による再診・処方を行うことで補いました。緊急事態宣言が明けて、チーム分けは解消しましたが、医局は密を避けるために2ヶ所に分かれた状態を現在まで継続しています。

病棟では発熱した患者をいつでも隔離できる病室を確保し、入院時は胸部X線写真を撮影して医師がそれを確

認してから病棟に行ってもらうなど、PCR検査を行わなくても可能な範囲での感染予防対策を施行、幸いなことに現在まで入院患者にCOVID-19の発症は1例も認めておりません。

診療の面では、先の緊急事態宣言の時には外来患者数が約2/3程度に減少しましたが、幸いその後は例年の水準に戻りました。ひとえに地域の、また関連施設の先生方のお力であり、感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

当院では肛門の疾患だけではなく、便失禁に対する薬物治療や外科的治療、排便障害に対するバイオフィードバック療法、括約筋を完全に温存する痔瘻根治術など、肛門機能に注目した診療を行っております。これからも先生方や患者の皆様の期待を裏切ることなく、安心して診療をまかせていただけるように、医師をはじめすべての職員一丸となって邁進する所存です。

(文責：松村奈緒美)

藤沢湘南台病院

T 252-0802 藤沢市高倉 2345

TEL 0466-44-1451 FAX 0466-44-6771

藤沢湘南台病院は、昭和7年、鈴木病院として鈴木文蔵により設立されて以来、湘南東部（藤沢北部）地域の中心的病院として、医療の充実に努めてきました。現在、急性期一般病棟210床、緩和ケア病棟19床、地域包括ケア病棟30床、ICU 8床、回復期リハビリテーション病棟33床、療養病棟30床の合計330床を有しております（2021年1月現在、緩和ケア病棟をコロナ病棟へ転換し運用）。また、法人内にスポーツジムを有することから、仕事終わりに筋トレやスイミングを行うことができます。そのためか、色々な科の若手医師が赴任後1年で、手術着から出る二の腕は丸太の様に、そして背筋は今にも飛び立ちそうな翼の如く肉体改造に成功しております。

現在、当院には第二外科から大木繁男先生、小泉泰裕先生と鈴木紳祐の3人、第一外科から12人の医師が派遣され、一体となって日々診療に当たっております。また、大木繁男先生と、山本裕司先生が同門会長ですので、外科同門会長が2人勤務する唯一の病院となっております。出身科に分け隔てなく、和気藹々とした雰囲気ですので、第一外科の人事希望でも常にトップ3に入っているそうです。

肝心の診療ですが、堅実に多くの定時手術を行いながら、「断らない診療」をモットーに、多くの緊急手術も行っております。それだけでなく、法人全体として「良いものはスピード感を持って、取り入れていく姿勢」を大事にしております。

具体的には

① da Vinciサージカルシステムを用いたロボット直腸手術
湘南東部地域で最初に導入しました。2020年末までに40例程の手術を3人の腹腔鏡技術認定医で行い、大きな合併症なく経過しております。

また、2020年6月から日本で唯一「直腸脱に対するロボット支援下直腸固定術」を開始し、半年間で10例程手術を行い、再発なく経過しております。最近では、遠く山口県からも直腸脱の患者様がいらしていただき、直腸脱を初め骨盤臓器脱の患者様の数も増えてきております。

② 腸活外来を始めてみた →

腸内細菌と消化器疾患の関連を臨床試験として始めたの



ですが、その勢いで外来を初めてみました。すると、東京・千葉から患者さんが検査を受けに来てくださる様になりました。

③ ICTの推進

- ・新型コロナウイルスのおかげで、非接触需要が高まりました。それに乗じて、法人内でzoomやVCRMを導入し、リクルートに活用したところ医師・看護師の入職が激増しました。
- ・メールアドレスでのやりとりは、無駄な文章が多いので連絡ツールとしてchatwork（LINEの様なサービス）を導入しました。
- ・近隣の病院との連携を進めるためにkintoneを導入し、スムーズな連携を取れる様になりました

④ オンライン診療 →

日本で初めて、総合病院で複数科のオンライン診療を始めました。



結果、当院の患者さんには全くもってニーズがないことがわかりました。

この様な形で、新しく良いものは「やってみなはれ」の精神で試行錯誤しながら進めております。

何かやりたいことがある方、試してみたいアイディアがある方、是非当院に遊びにいらしてください。職員一同お待ちしております。（文責：鈴木紳祐）



2020年1月頃から徐々に始まった、COVID-19（新型コロナウイルス）によるパンデミックを一体だれが想像したであろうか。

[当院におけるCOVID-19の防御への取り組み]

2020年4月から、新型コロナウイルス対策委員会を立ち上げた。それは、事務局、消化器内視鏡検査・腹部超音波検査など検査部、看護部など各部門のメンバーから構成された組織であり、週一回から始まった。対策としては、外来における午後の診療時間の短縮、待合室等におけるソーシャルディスタンスの徹底、各要所への消毒薬の設置等。消化管検査の実施体制においては、検査数の一部を縮小、フェイスガード、防護服、キャップなど、防御体制の実施などである。

新型コロナウイルスのPCR検査については、2021年1月末から、入院患者さんにPCR検査を実施している。

感染防御対策は粛々とすすめられた。

同時に、院内の模様替え、受付や事務の改装が行われた。また、炎症性腸疾患IBD（Inflammatory Bowel Disease）に適応される顆粒球除去療法GCAP（granulocytapheresis）は入院ベッドで行っていたが、外来で行われるように一部改築された。

以上のような体制での一昨年の実績をお伝えする。

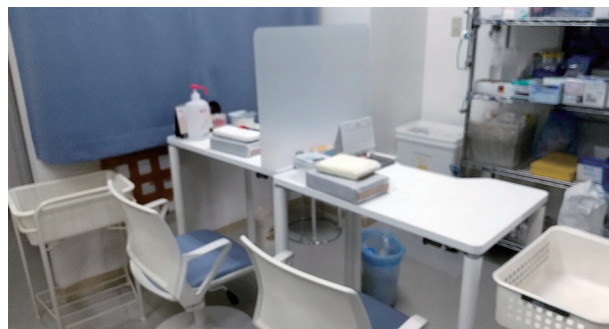
[2021年の実績]

手術は、腰椎麻酔下に施行。痔核硬化療法ジオン注（ALTA法：硫酸アルミニウムカリウム水和物・タンニン酸が成分）、痔核根治手術、裂肛根治手術、痔瘻根治手術、直腸脱などで、総計約1,000例。痔瘻は291件でⅢ型複雑痔瘻21例。

消化管内視鏡検査では、上部消化管は3373例、下部消化管は4,664例であった。なお、腹部超音波検査は2,064例。

2021年3月現在、職員、入院患者とともにCOVID-19感染の発生は認められない。感染拡大の菌止めに、ワクチンが有効であることを期待したい。

（文責：大高京子）



令和3年度 関連施設勤務者

(2021年4月現在)

●独立行政法人国立病院機構横浜医療センター

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿3-60-2
TEL 045-851-2621 FAX 045-853-8359

診療統括部長	関戸 仁 (S58)		
外科部長	松田 悟郎 (H5)	清水 哲也 (H9)	
外科医長	木村 準 (H15)		
医 師	柿添 学 (H16)	矢澤 慶一 (H20)	堀井 伸利 (H21)
	藤原 大樹 (H24)	田中 裕佳 (H26)	
非常勤勤務	太田 郁子 (H14)		

●横浜市立市民病院

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町1-1
TEL 045-316-4580 FAX 045-316-6580

消化器外科科長 部長	望月 康久 (S62)		
消化器外科部長	高橋 正純 (S58)	藤井 義郎 (H3)	
消化器外科副医長	田中 優作 (H19)		
医 師	小倉 巧也 (H28)		
炎症性腸疾患 (IBD) 科	炎症性腸疾患センター長 小金井一隆 (S61)		
炎症性腸疾患 (IBD) 科部長			
	辰巳 健志 (H12)		
乳腺外科科長 部長	石山 暁 (S58)		
乳腺外科部長	鬼頭 礼子 (H9)		
医 師	門倉 俊明 (H18)	笹本真覇人 (H27)	

●藤沢市民病院

〒251-8550 藤沢市藤沢2-6-1
TEL 0466-25-3111 FAX 0466-25-3545

消化器外科主任部長	医療支援部長	患者総合支援センター長	
	山岸 茂 (H7)		
専門医長	牧野 洋知 (H8)	大田 洋平 (H16)	浅野 史雄 (H17)
	森 康一 (H21)		
医 師	川島 圭 (H29)		
乳腺外科部長	菅江 貞亨 (H12)		
呼吸器外科主任部長	吉本 昇 (H5)		

●伊東市民病院

〒414-0055 伊東市岡196-1
TEL 0557-37-2626 FAX 0557-35-0631

副病院長 兼 診療部長 兼 外科部長	
神谷 紀之 (H4)	

●横須賀市立市民病院

〒240-0195 横須賀市長坂1-3-2
TEL 046-856-3136 FAX 046-858-1776

副病院長・診療部長 亀田久仁郎 (S63)
診療部長 長嶺弘太郎 (H6)
主任医長 中山 岳龍 (H20)
医 師 油座 築 (H24) 藤原 淑恵 (H24)

●茅ヶ崎市立病院

〒253-0042 茅ヶ崎市本村5-15-1
TEL 0467-52-1111 FAX 0467-54-0770

乳腺外科部長 嶋田 和博 (H15)
乳腺外科医師 村上 剛之 (H25)

●横浜労災病院

〒222-0036 横浜市港北区小机町3211
TEL 045-474-8111 FAX 045-474-8323

包括的乳腺先進医療センター長 乳腺外科部長
千島 隆司 (H3)
乳腺外科医師 原田 郁 (H20) 柴田侑華子 (H27) 井上 栞 (H27)

●横須賀共済病院

〒238-8558 横須賀市米ヶ浜通1-16
TEL 046-822-2710 FAX 046-825-2103

病 院 長 長堀 薫 (S53)
消化器病センター長 外科部長
舩井 秀宣 (S62)
外科副部長 野尻 和典 (H12)
医 長 吉田 謙一 (H8) 小野 秀高 (H10) 南 裕太 (H13)
諏訪 宏和 (H15) 鈴木 千穂 (H22)
医 員 酒井 淳 (H27)
非常勤医師 太田 郁子 (H14)

●横浜みなと赤十字病院

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1
TEL 045-628-6100 FAX 045-628-6101

院長補佐、外科部長、肝胆膵外科部長
杉田 光隆 (H5)
大腸外科部長 大田 貢由 (H3)
食道・胃外科医長 佐藤 圭 (H18)
医 師 田鍾 寛 (H21) 大西 宙 (H21) 藤田 亮 (H28)
院長補佐・乳腺外科部長・国際医療部長
清水 大輔 (H8)
医 師 門倉 俊明 (H18) 三上 友菜 (H26)
緩和ケアセンター長 緩和ケア科部長
小尾 芳郎 (S57)

●済生会横浜市南部病院

〒234-8503 横浜市港南区港南台3-2-10
TEL 045-832-1111 FAX 045-832-8335

副院長 主任部長 患者サービス・地域連携部長 入退院支援センター長
福島 忠男 (S62)
外科部長 長谷川誠司 (H2) 上田 倫夫 (H6)
外科医長 和田 朋子 (H20) 三宅 益代 (H21)
医 員 窪田硫富人 (H29)

●JCHO横浜保土ヶ谷中央病院

〒240-8585 横浜市保土ヶ谷区釜台町43-1
TEL 045-331-1251 FAX 045-331-0864

病 院 長 池 秀之 (S54)
診療部長 上向 伸幸 (H6)
部 長 谷口 浩一 (H11)
健康管理科部長 簾田康一郎 (S60)
医 師 有坂 早香 (H20)
非常勤医師 足立 祥子 (H22)
検 査 科 窪田 徹 (S61)

●横浜掖済会病院 外科

〒231-0036 横浜市中区山田町1-2
TEL 045-261-8191 FAX 045-261-8149

副 院 長 佐藤 芳樹 (S59)
部 長 森岡 大介 (H5)
副 部 長 山口 直孝 (H13)
非 常 勤 中崎 佑介 (H25)

●NTT東日本関東病院 外科

〒141-8625 東京都品川区東五反田5-9-22
TEL 03-3448-6111 FAX 03-3448-6558

医 長 樺山 将士 (H14)
医 師 池田 孝秀 (H27)

●長津田厚生総合病院 外科

〒226-0027 横浜市緑区長津田4-23-1
TEL 045-981-1201 FAX 045-981-1205

副院長 外科部長 森 隆太郎 (H12)
医 師 泉澤 祐介 (H16)

●育生会横浜病院

〒240-0025 横浜市保土ヶ谷区狩場町200-7
TEL 045-712-9921 FAX 045-712-9926

院 長 長堀 優 (S58)

●港南台病院

〒234-8506 横浜市港南区港南台2-7-41
TEL 045-831-8181 FAX 045-831-8281

院 長 大塚 裕一 (H8)
医 師 朴 峻 (H23) 佐原 康太 (H24)

●帝京大学ちば総合医療センター 外科(肝胆膵) 〒299-0111 千葉県市原市姉崎3426-3
TEL 0436-62-1211

助 教 村上 崇 (H18)

●聖路加国際病院 乳腺外科 〒104-8560 東京都中央区明石町9-1
TEL 03-3541-5151

医 幹 喜多久美子 (H17)

●松島病院 〒220-0041 横浜市西区戸部本町19-11
TEL 045-321-7311 FAX 045-321-7330

理事長・総院長 松島 誠 (S53)
医 師 松村奈緒美 (H5)

●藤沢湘南台病院 〒252-0802 藤沢市高倉2345
TEL 0466-44-1451 FAX 0466-44-6771

副理事長 副院長 医療安全管理室副室長 大腸肛門病AELICセンター 副センター長
鈴木 紳祐 (H19)
ERセンターセンター長 外科担当部長(救急)
小泉 泰裕 (S61)

●関沢クリニック 〒236-0053 横浜市金沢区能見台通8-28
TEL 045-786-8852 FAX 045-786-9293

関澤健太郎 (H19)

●荒川外科肛門科 〒116-0002 東京都荒川区荒川4-2-7
TEL 03-3806-8213

院 長 松田 好雄 (S43)
副 院 長 大高 京子 (S56)

●医療法人社団康喜会 東葛辻仲病院 〒270-1168 千葉県我孫子市根戸946-1
TEL 04-7184-9000

院 長 松尾 恵五 (S59)

●特定医療法人社団鵬友会 湘南泉病院 〒245-0009 横浜市泉区新橋町1783
TEL 045-812-2288

センター長 三邊 大介 (H2)